

R4年度 地域循環共生圏プラットフォーム構築事業
関東ブロック中間共有会

2022年10月21日（金）
一般財団法人箱根町観光協会

活動団体と地域の紹介



Mission 使命 箱根DMOは「観光地そのものを経営する」視点のもと、官民一体ALL箱根の構造で箱根町の観光経済を拡大・発展させることを使命とする

ALL箱根で豊かな箱根を目指す
=観光経済消費3000億円

- ・箱根は主たる産業が観光以外に無く、総称箱根火山内に位置し、かつ全域が富士箱根伊豆国立公園に含まれ日本ジオパークに指定されている「THE観光地」。首都圏からの近さと交通利便性に加えて、小田急ゴールデンコースで1周できる利便性や、300ある人気の宿泊施設や質の高い美術館群、火山であるため農産物はほぼ取れないにも関わらず多くの人気のグルメがあり、年間2000万人が訪れる人気観光地。
- ・箱根町は人口11,000人を下回り、少子高齢化のトップランナー。地方交付税不交付団体のため財政は6-7億円赤字（一般会計約100億円）
- ・過去5町村が合併し、地域標高差（約800m）などにより、地域間の合意形成が難しい。各地域観光協会は10もある。この合意形成（Management）を基にALL箱根で数値（Marketing）に基づいた戦略立案→推進を行っているのが箱根DMO（一般財団法人箱根町観光協会）。
- ・2018年登録DMO取得。箱根町受託事業、補助金、賛助会員会費等をベースに約2.5億円のP/Lを毎年運用している。

◆観光の現状と課題

- ・入込観光客数約2000万人（平年）観光消費額2900億円※2017年宿泊が25% 500万人程度。外国人は20%近くまで伸びて来ていた※コロナで激減。年間を通じてピーク（年末年始・夏休み・11月紅葉期）は収容人員に限度があり、年間を通じた平準化と単価向上が経済消費拡大の課題。
- ・国内は首都圏、インバウンドは欧米豪
首都圏が70%、インバウンドは（中国>アメリカ>イギリス>フランス>オーストラリア）の順※箱根町総合案内所データ
首都圏観光地との完全な競合に勝ち続ける事と、欧米豪のインバウンド客の満足度をさらに上げて行き、両セグメントのLTVを上げることが課題。
- ・個人客中心
日本人個人客:70%、法人団体:15%、外国人:15%（平年の想定）であり、個人客の満足度（現在90%近く）維持向上が課題。
- ・マイカー中心
観光客全体の70%程度。狭い道路事情も相まって渋滞緩和が課題。不満足1位は常に交通渋滞。
- ・国立公園観光地
全体が富士箱根伊豆国立公園に位置する、環境省管理事務所も箱根にあり、DMOと協働で2050年を見据えてSDGs/ESGに対応した観光地にすることが課題。
- ・火山観光地
全体が総称「箱根火山」に位置しており、爆裂火口である大涌谷がメイン観光地の一つである。火山防災を進化させながら観光と両立していく事が課題。

2. 戦略

- ・箱根町観光戦略の立案とアクション推進
従来の総花的な「箱根町HOT21観光プラン」を令和元年度に刷新し、2023年度までに成果を上げるべく執行中。
- ・合意形成と戦略実行が目的の「箱根DMO戦略推進委員会」
箱根山内のほぼすべてのステークホルダが入った「戦略推進委員会」を組成。毎月の委員会の他にも下記のプロジェクトが個別に動いている。
- ・プロジェクト制による戦略実行
町の観光戦略アクションプランの推進のため、下記のようなプロジェクトを推進中。箱根町職員も観光課に加えて環境課、都市整備課、企画課など9名の中堅が参画して官民一体で推進している。
1. JSTS-D PJT、2. アフターコロナインバウンドPJT、3. 交通インフラPJT、4. ユニバーサルツーリズムPJT 5. ガイド戦略構築PJT、6. 地域循環共生圏設計PJT、7. 旅マエ目的増加PJT、8. エヴァンゲリオンレガシー化PJT 9. 寄木細工振興PJT
- ・国、県の補助金も活用した戦略推進
箱根町の基本補助事業多数の他、文化庁文化遺産総合活用推進事業（2018年1,500万円）、環境省箱根利用動態調査（2019年度900万円）、環境省ナイトタイムエコノミー事業（2020年1,000万円）、神奈川県混雑緩和に係る新たな観光モデル創出推進事業（2020年1800万円）、観光庁誘客多角化（2020年2000万円）などを活用。また、箱根観光交通対策会議（2019年～関東運輸局・箱根町共催）において課題である交通渋滞の緩和に取り組んでいる。
- ・他観光協会やDMOとの連携
神奈川県観光協会、かながわ西観光コンベンションビューロー、小田原DMO等の組織とも連携している。

< 令和4年度(2022年) 箱根DMO戦略推進委員会 委員一覧 >

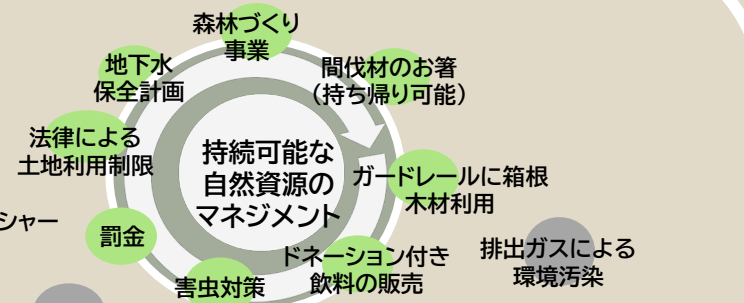
2022年5月10日現在
敬称略・順不同

氏名	推薦団体・企業		氏名	推薦団体・企業
太田明宏 ※戦略推進委員長	宮ノ下観光協会		国枝大輔	株式会社小田急リゾート
窪澤圭	仙石原観光協会		稲葉健二	株式会社プリンスホテル
金子森	芦ノ湖・芦之湯地区観光連絡協議会		中島朝実	伊豆箱根鉄道株式会社
播摩和幸	箱根強羅観光協会		市原健太	小田急箱根ホールディングス株式会社
澤村吉之	箱根湯本観光協会		多田直人	箱根町（観光課副課長）
福住貴文	箱根温泉旅館ホテル協同組合		宮下幸雄	株式会社JTB（オブザーバー）
保坂喜与寅	箱根温泉旅館ホテル協同組合		濱田健男	株式会社JTB（オブザーバー）
小川尊也	箱根温泉旅館ホテル協同組合		上原望	ランドブレイン株式会社（オブザーバー）
中嶋順	箱根プロモーションフォーラム		藤井貴之	ランドブレイン株式会社（オブザーバー）
内田信也	小田原箱根商工会議所		原洋平	（オブザーバー）
菊川鉄也	小田原箱根商工会議所		Jeffrey Garrish	HoEigo（オブザーバー）
岡安啓次	東方の光		小田英男	カンドウコーポレーション(オブザーバー)
越地良吾	富士屋ホテル株式会社		佐藤守 ※事務局長	箱根DMO（一般財団法人箱根町観光協会）
田中太郎	藤田観光株式会社			

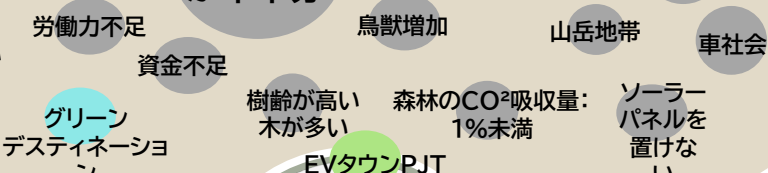
課題
既存の取組
これからの取組

ALL箱根のビジョン 訪れる人に気づきを与える場所 SDGs Show Room

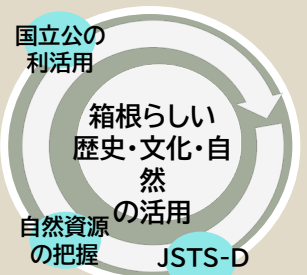
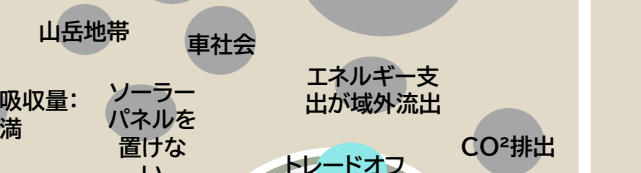
持続可能な自然資源のマネジメント



森林マネジメントが不十分



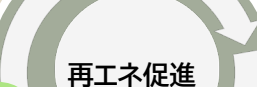
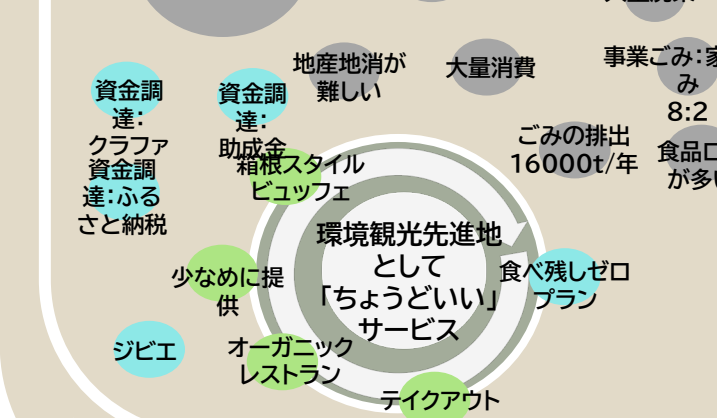
観光客優位な交通システム



観光業由来のごみが多すぎる

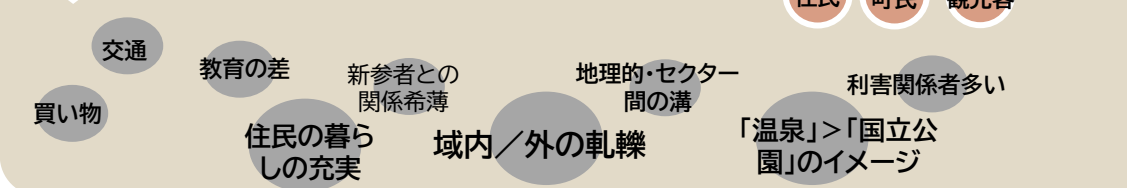


観光×SDGsが定着していない

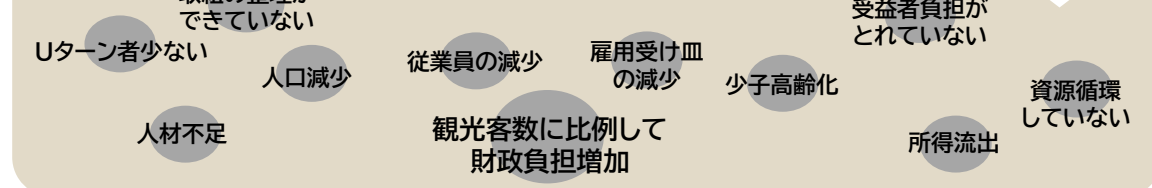


脱炭素社会

意識と行動の変容



ヒトモノカネの動き



持続可能な箱根町の曼荼羅図

ver.2.0

2022年5月現在

課題 既存の取組 これからの取組 プロジェクトテーマ(案)

プラスチックの削減 (使う/捨てる)

取組の周知

箱根の森の持続可能な利活用

食に関するテーマ・フードロス削減

交通のマネジメント

地域経営のデザイン

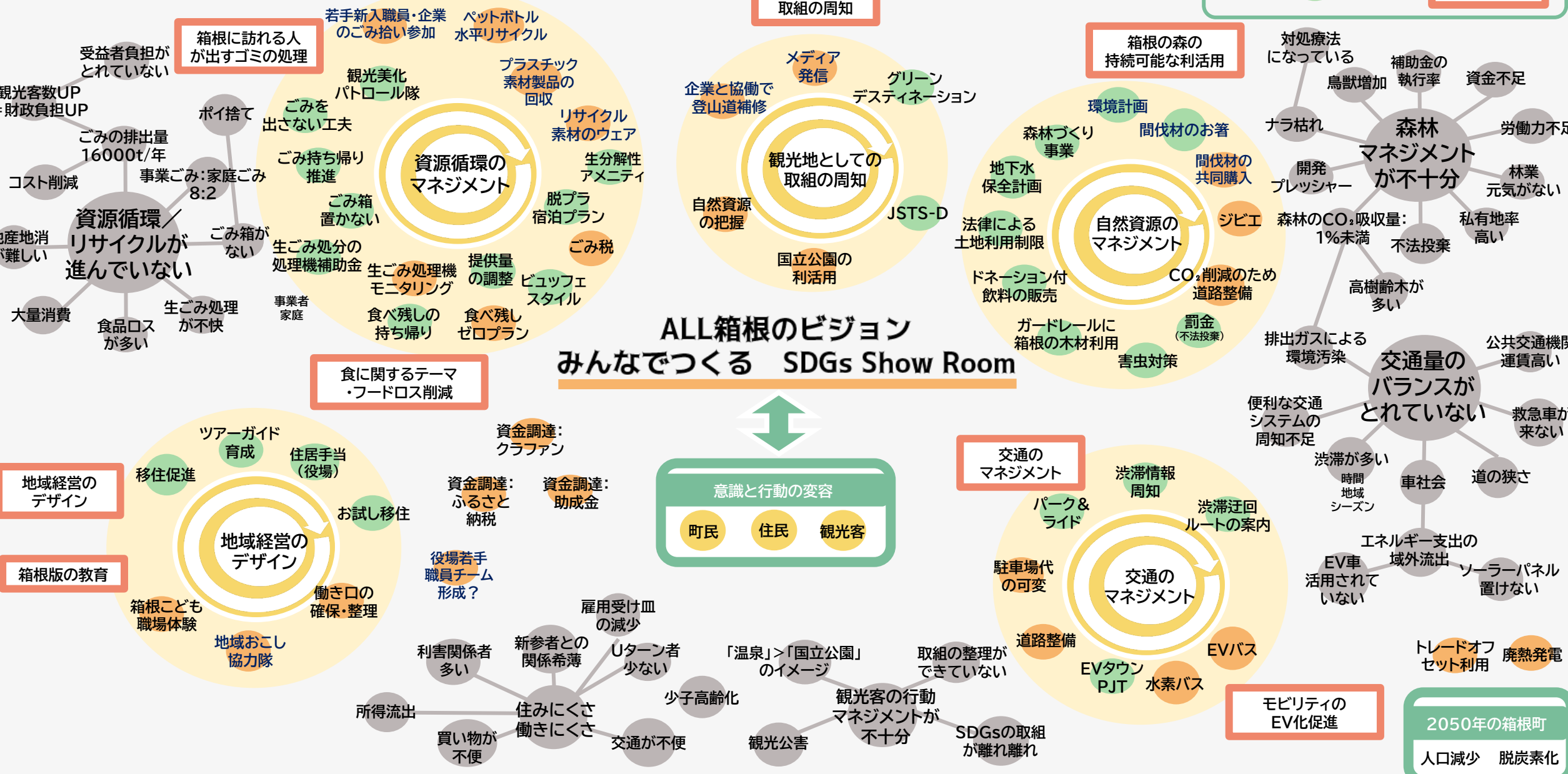
箱根版の教育

モビリティのEV化促進

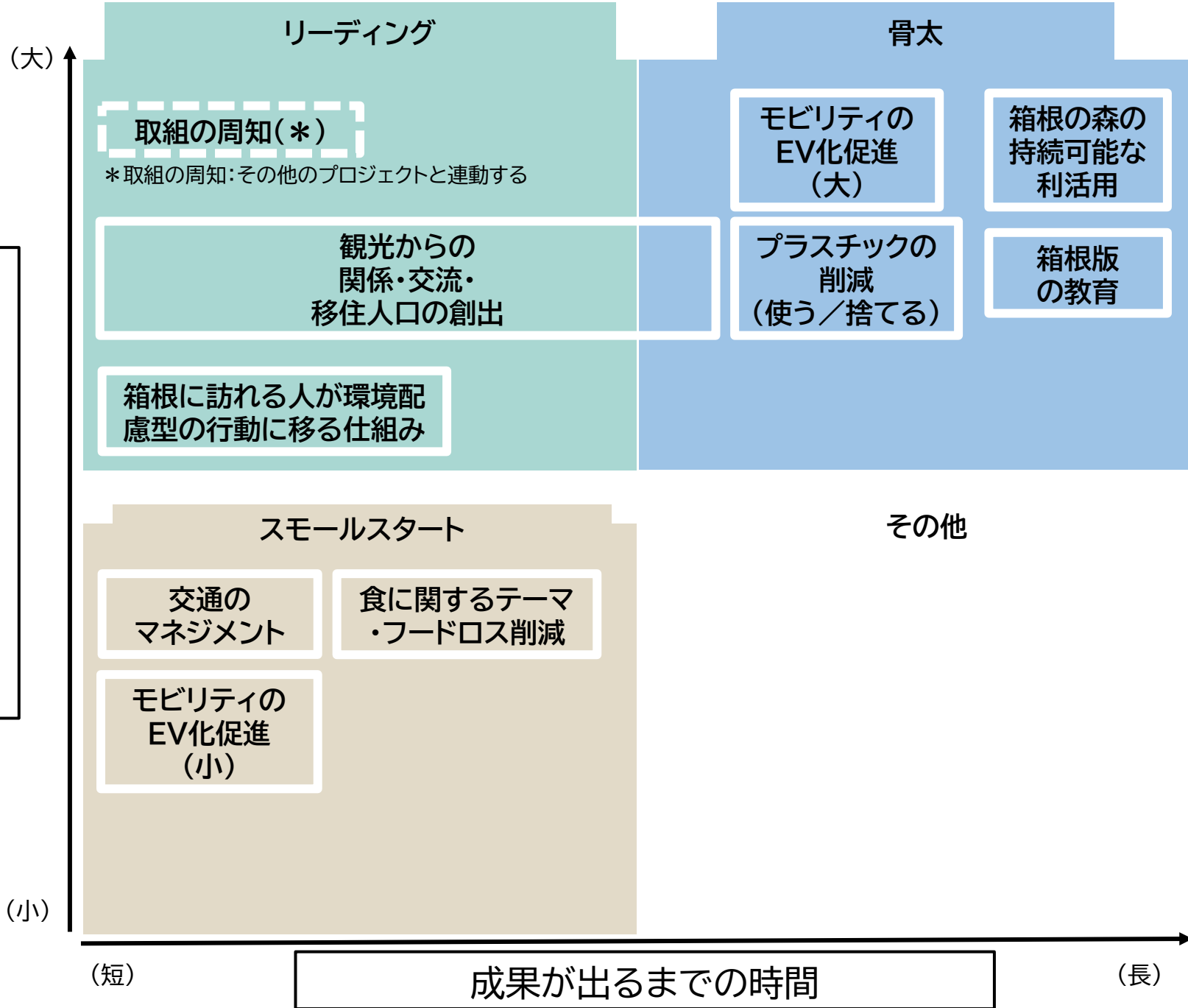
2050年の箱根町
人口減少 脱炭素化

ALL箱根のビジョン みんなでつくる SDGs Show Room

意識と行動の変容
町民 住民 観光客



インパクトの大きさ



リーディングプロジェクト	・割と着手しやすく、このチームで取り組むことでインパクトが見込めるもの
骨太プロジェクト	・このチームで取り組むことが重要なテーマだが、準備または成果が出るまでに時間がかかるもの
スモールスタートプロジェクト	・チームメンバーのみならず、すぐに取り組める、あるいは取り組むべき内容
その他	・このチームだけではカバーしきれず、成果や効果の定義が難しい、あるいは成果が出るまで時間がかかるもの

グループとテーマ

A

食に関するテーマ
・フードロス削減

プラスチックの削減
(使う／捨てる)

B

箱根の森の
持続可能な利活用

C

箱根版の教育

観光からの
関係・交流・
移住人口の創出

箱根を訪れる人が
環境配慮型の行動
に移る仕組み

D

モビリティの
EV化促進

交通の
マネジメント

グループ	PJテーマ	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	R5~
A	食に関するテーマ ・フードロス削減									PJの整理(プレーヤー・資金等) → 今年度中の着手				
	プラスチックの削減 (使う/捨てる)									既存の取組を継続 → インパクトを出せる時期の見定め				
B	箱根版の教育													PJの整理/ AやDのPJとの連動/ 来年度の着手を目指す
	観光からの 関係・交流・ 移住人口の創出													
	箱根に訪れる人が 環境配慮型の 行動に移る仕組み													
C	箱根の森の 持続可能な利活用											2つの視点で打ち手を整理: 「観光客からの利用価値」/「自然資源としての価値」		
D	モビリティの EV化促進													DMO 交通インフラPJ との合流・協議
	交通のマネジメント													
意見交換会			5/18 全体			8/9 行政MTG・ 隠岐との 意見交換会	9/7 全体	10/4 全体						